

「職人わざ」か？ これも

N 2 2009. 8. 14

J R 東海 労 東 二 運 分 会



所内誌 8 月号に、運転士として 65 才まで頑張られた鈴木繁さんが紹介されています。鈴木さん、長い間、本当にお疲れさまでした。

チームリーダーは、鈴木さんの職人ぶりを「定時運転にかける執念はすばらしいものであり、職人わざでありました」と紹介しています。

そして最後に、「管理者をはじめ（ゴシックは筆者）、乗務員においても職人わざで活躍されている方々がおられます」、と付して「職人わざ」を奨励して結んでいます。

全ての所員のみなさん！

運転士の職人わざを紹介した文の結びが、なぜか「管理者」、からはじまっています。そう言えば、沢山いる助役さんのなかにも「管理者」としての職人わざにかける執念が見事に伝わってくる方々があります。

例えば、指導科の M 助役さんが A 運転士に添乗（O 助役さんと二人で添乗）し、「A 遅れるぞ、ノッチあげろ」と指示したそうです。A さんは 4 分の余裕時分のなか、計算をしながら運転していましたが、助役の指示に従ってノッチアップをしたものの、30 秒くらい早着しそうになったので、やむなくマニュアルブレーキで減速し何とか定着したそうです。M 助役曰く、「悪い悪い後ろから時計見ていたから」、だそうです。（誰の時計？）

ダメ押しは、「300 系のブレーキ故障のバックアップは？」という試問だったそうです。残念ながら A さんが考え込んでいたら、M 助役さんは O 助役となにやら打ち合わせ？ をし、「悪い悪い」編成はバックアップ無かった」、と宣ったそうです。あっぱれ M 助役さん。（打ち合わせ？ 言い訳？ を含めて見事な「職人わざ」です）

全ての運転士のみなさん！

確かに、M 助役さんが管理者として「職人わざ」で執念を持って指導したり試問する姿勢は認めるとしても、これじゃ～ 苦労を重ねた職人・匠が怒りますよね。

「管理職 職人わざか 巧みだね」 C D 頑爺